

あなたの物語は



すぎえ
杉江

まさし
征 (保健管理センター 学生相談室)

大学には、高校までと違い、受験のための一本化された価値観というものはありません。大学生活を「こう送るべき」というものもありません(極端なことを言うと、授業料の納入と卒業単位の取得だけは最低限必要なことかな)。何を大切にしながら、どうやって生活していくかという判断は皆さん自身に委ねられています。勉強に力を入れるのもよし、クラブやサークル活動に打ち込むのもよし、アルバイトや友達作りに精を出すのもよし、それぞれ自分の生き方として自分で決定していくことになります。みなさんは、どんな学生生活にしたいですか、あるいはしようとしていますか。

あなたの物語のモチーフは

あなたが送る大学生活を、一つの物語を作っていく作業としてたとえてみると、「どんな大学生活にしたいか」ということは、これからあなた自身で作っていく自分だけの物語のモチーフを考えることとも言えるでしょう。新入生の方々は、入学して間もないこの時期に、これから書き始める物語の大枠を考えてみるとよいと思います。また、先輩方も、時に全体を俯瞰して、これまでを振り返りながら、これからの考えてみることもとても大切のように思います。4年生でも遅くはありません。

物語の登場人物

たいいていの場合、物語には多くの人物が登場してきます。別の言い方をすると、あなたとあなたを取り巻く友達や先生方との間で、おもにその物語は作られてくるとも言えます。それゆえ、物語がどんな展開になるかや、どのような具体的な内容になるかなどは、登場人物によって大きく左右されます。登場人物は物語を書く上でとても重要な要因であると言えるでしょう。

では、どんな人に登場してもらいたいですか。大学には、全国各地からこれまで出会ったことのないような人たちが集まってきています。みんなそれぞれ異なる環境の中で十数年間育ってきた人たちです。ものの考え方や感じ方、大切に思っていること、人とかかわり方や距離の取り方など、みんな個性があります。クラスやサークル、研究室などで何気なく出会った人たちが、自分とは違って「すごい

なあ」と思って、ちょっと落ち込んだりするかも知れません。でも、あなたもそう見られているかも知れません。他人は立派に見えるものなのです。自分の個性に自信を持ってください。もともと、みんな、自分とは異なっていると最初から思っていた方がよいでしょう。そして、自分とは違う、異なった個性を持った多くの人たちと出会えるということが、大学生活の一つの魅力なのです。

新入生が知り合いになりやすい人たちというのは、宿舎やアパートの隣人、学群・学類のクラスメートや授業で一緒になる人たち、担任の先生方、サークル活動の先輩や同級生たちが主なものでしょう。こういった人たちは、慣れない環境の中でいろいろな情報を提供してくれます。同時に、ここでの居場所としても重要になってきます。研究室も同様です。

新しい人間関係が展開されていく中で、ちょっと気後れしてしまうこともあるかもしれません。そんな時には、自分の物語に誰かが登場してくるのを待っていないで、自分から出演の依頼を出してみたらどうでしょうか、物語の主役はあなたなのですから。勇気を出して、一歩前に出て、これはと思う人に自分から声をかけてみるのが大切です。もちろん望まない関係の場合には、登場するのをお断りすることも出来ますよ。

やがて大学生活が進むにつれて登場人物も増え、その内容もさまざま変わってくるものと思われま。人間関係というものは、喜怒哀楽を共にしながら深まり、豊かになっていくものです。逃げずに、しっかりと喜怒哀楽を体験してください(物語の書き方の続きはまた後日、別の機会にでも)。

物語の休憩所—学生相談室—

物語をみなさんが書き進めていく上で、その展開に迷ったり、あるいは筆が進まなくなったりしてしまうこともあるでしょう。そんな時には、学生相談室を利用してください。そして、あなたの物語を聴かせてください。長い学生生活の中では、予期せぬことなどさまざまなことが起こってきます。それがどんなことであっても、学生相談室ではみなさんの物語が充実し、納得のいくものになるよう一緒に協力していきたいと思っています。ぜひ利用してください。お待ちしております。



ひとりで悩まず 保健管理センターへ

保健管理センター受付 029(853)2410

学生相談室受付 029(853)2415